

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/25

ドル安継続か是正か、米FOMCが最大の焦点に

通貨ペア		ページ数	
基調			
ユーロ/円	➡	米FOMC睨みでドルが主役の週 予想レンジ: 117.80 ~ 121.50円	2-3
ユーロ/ドル	➡	米QE2終了後の金融政策は? 予想レンジ: 1.4350 ~ 1.4750 ドル	4-5
ポンド/円	➡	基本的に主体性のない動きに 予想レンジ: 132.50 ~ 138.20 円	6-7
ポンド/ドル	➡	主にドルの材料で動く 予想レンジ: 1.6250 ~ 1.6720 ドル	8-9
経済指標 カレンダー		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 4/18~22までの主な推移



4/18
Monday

ギリシャ紙が「ギリシャは4月初めの欧州連合(EU)非公式会合でEUと国際通貨基金(IMF)に債務再編を要請した」と報道した事を受けて同国の債務再編への懸念が高まった事や、格付け会社S&Pによる米国債の格付け見直し引き下げを嫌気して、NYダウ平均株価が250ドル近く下落した事でリスク回避の動きが強まると、ユーロ/円は116.47円の安値を付けた。(①)

4/20
Wednesday

早朝に発表された米インテルの好決算を受けて日経平均株価をはじめアジア株が軒並み上昇したのに続き欧州株も上昇して始まった事に加え、原油や金などの国際商品価格も上昇した事を受けてリスクを積極的に取る動きが強まるとユーロ/円は上昇した。さらに、その後行われたスペイン国債入札で堅調な需要が見られた事を好感してユーロ買いが加速すると、ユーロ/円は120.38円の高値を付けた。(②)

4/21
Thursday

欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁が「ECBは連続利上げを決断した訳ではない」「強いドルは国際社会すべてに対する利益」などと発言した事をきっかけに、イースター休暇を控えて利益確定の売りが強まりユーロが急落した。その後、米4月フィラデルフィア連銀景況指数が18.5と予想の36.9を大きく下回り、ドル/円が81.60円まで下落すると、ユーロ/円も118.62円まで下値を切り下げた。(③)

上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題
- 欧州金融機関に対する懸念

EUR/JPY

今週の見通し

先週のユーロ/円相場は116.47円～120.38円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.6%の下落(ユーロ安・円高)となった。先週は、世界的に株高・商品高が続く中、ドルが全面安となりユーロ/ドルは上昇したものの、ドル/円の下落がユーロ/円の下落につながった格好だ。今週も、為替市場の最大の焦点は米連邦公開市場委員会(FOMC)であり、ドルが主役の相場展開となりそうで、クロス円に方向感はいまいだろう。27日に発表されるFOMC声明やバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の会見で「出口戦略」への道筋が示されれば、ドル買いが強まると見られるが、この場合、ドル/円が上昇する一方で、ユーロ/ドルが下落する可能性が高い。反対に、FOMCで米国金融緩和の継続が示されれば、ドル売りが優勢となり、ドル/円は下落する一方で、ユーロ/ドルは上昇する事になるだろう。いずれにしても、ユーロ/円に明確な方向感はいまいと考えられる。(神田)

(予想レンジ:117.80～121.50円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/円 4/22週足引値:119.23円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)ユーロ/円は、88.93円(2000/10安値)から169.95円(2008/07高値)へと81.02円上昇したあと、大きく下落した。それから、105.42円(8/24)を安値、115.97円(3/04)を高値にもみ合ったあと、4/11に123.33円まで上昇している。先週のユーロ/円は4/18に116.47円まで下落後、戻り上昇の動きとなった。取引値は60日線(115.42円、4/22)、200日線(112.55円、4/22)、を上回るが、20日線(119.56円、4/22)と交錯する動きとなっている。ボリンジャーバンドは4/22現在、上限:123.65円～下限:115.47円で、バンド上限が下落、下限は上昇してバンド幅は縮小している。先週は123.33円まで上昇後の安値116.47円を見て、そこからリバウンドで上昇しているが、目先の方向感を探る展開となっている。これまでの上昇に対する調整的な動きとなっているが、目先は116～121円のようなレンジになるのかもしれない。超長期の相場ではまだ下落が終了したとは思っていない。上値ポイントは、①123.33円(4/11高値)、②126.31円(139.22円と105.42円の61.8%戻し)であり、下値ポイントは①118.43円(113.53円<3/24安値>⇒123.33円<4/11高値>の半値)、116.47円(4/18安値)、③115.97円(3/04高値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 4/18~22までの主な推移



4/18 Monday	ギリシャ紙が「ギリシャは4月初めの欧州連合(EU)非公式会合でEUと国際通貨基金(IMF)に債務再編を要請した」と報道した事を受けて同国の債務再編への懸念が高まった事や、格付け会社S&Pによる米国債の格付け見直し引き下げを嫌気して、NYダウ平均株価が250ドル近く下落した事でリスク回避の動きが強まると、ユーロ/ドルは1.4156ドルの安値を付けた。(①)
4/20 Wednesday	早朝に発表された米インテルの好決算を受けて、日経平均株価をはじめアジア株が軒並み上昇したのに続き欧州株も上昇して始まった事に加え、原油や金などの国際商品価格も上昇した事を受けてリスクを積極的に取る動きが強まるとユーロ/ドルは上昇した。さらに、その後行われたスペイン国債入札で堅調な需要が見られた事を好感してユーロ買いが加速すると、ユーロ/ドルは1.4546ドルまで上昇した。(②)
4/21 Thursday	原油や金などの国際商品価格の上昇や、世界的な株高を背景にユーロ買い・ドル売りが進む中、ユーロ/ドルは昨年高値水準にあたる1.4580ドル付近にあったストップロスを巻き込んで一段高となった。さらに英3月小売売上高指数が予想を上回った事を受けてポンド/ドルが上昇すると、これにつれてユーロ/ドルも上値を伸ばし、2009年12月以来となる1.4649ドルの高値を付けた。(③)しかしその後欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁が「ECBは連続利上げを決断した訳ではない」「強いドルは国際社会すべてに対する利益」などと発言した事をきっかけに、イースター休暇を控えて利益確定の売りが強まるとユーロ/ドルは1.4532ドルまで下落した。

上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米国の超低金利長期化観測

下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題
→欧州金融機関に対する懸念
- ・ドル金利の先高観

巻末の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4156～1.4649ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.9%の上昇（ユーロ高・ドル安）となった。今週は、26日に発表される2010年ユーロ圏財政赤字の対国内総生産（GDP）比率や、26-27日に開催される米連邦公開市場委員会（FOMC）、28日発表の米第1四半期GDP・速報値、29日発表のユーロ圏4月消費者物価指数と注目点が多い。ユーロ圏の財政赤字では、債務再編が噂されるギリシャの財政赤字がGDP比10%を超え、当初の目標である8%を大きく上回ると見られている（ユーロ売り材料）。米FOMCでは、量的緩和第2弾は予定通り6月末までで終了するものの、これまでに米連邦準備制度理事会（FRB）が買い入れた債券の償還など、バランスシートの縮小は無いと見られている（ドル売り材料）。米GDPは前期比年率+1.8%と前期（+3.1%）からの減速が見込まれている（ドル売り材料）。ユーロ圏消費者物価指数は前年比+2.7%と高止まりが予想されている（ユーロ買い材料）。材料面からはユーロ買い・ドル売り優勢の推移が見込まれる。（神田）

（予想レンジ:1.4350～1.4750ドル）

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ユーロ/ドル 4/22週足引値:1.4552(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ユーロ/ドルは超長期で見ると、0.8234(2000/10安値)と1.6037(2008/07高値)の幅の中、半値である1.2136を割り込んで2010/6/07に1.1874の安値を見た。その後は11/04高値1.4283⇒1/10安値1.2873⇒4/21高値1.4649となっている。

現状の取引値は20日線(1.4335、4/22)、60日線(1.3992、4/22)、200日線(1.3520、4/22)よりも上値に位置する。先週は1.4156～1.4649のレンジでの取引となった。4/18に安値1.4156を見たが、そこから500ポイントの大幅な上昇を見た。ボリンジャーバンドは4/22現在、上限:1.4645～下限:1.4026であり、取引値がバンド上限を押し上げて上昇し、下限も上昇が続いている。ユーロは上昇相場の中にあり、先週は大幅な上昇を見た。相当大きな買いが出て上昇しているが、ここからは逆に上昇が失敗した際の下落を狙うべきところ。大きな上ヒゲ等が出る等の動きには注意したい。上値ポイントは1.4649(4/21高値)、下値ポイントは①1.4335(20日線、4/22段階)、②1.4156(4/18安値)、③1.4020(3/28安値)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

ポンド/円 4/18~22の主な推移



<p>4/18 Monday</p>	<p>前週末に行われたフィンランド議会選挙で反欧州連合(EU)を掲げる政党「真のフィンランド人」が躍進し、ポルトガルの支援承認が困難となる可能性が浮上したことでユーロ/円が下落すると、ポンド/円も連れて下落。さらに、夕方にギリシャ紙が「ギリシャは4月初めのEU非公式財務相会合でEUと国際通貨基金(IMF)に債務再編を要請した」と報じた事を受けてユーロ売りが続いた他、格付け会社S&Pが米国の格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げたことでドル/円が大きく下落すると、ポンド/円も連れ安となり、132.99円の安値をつけた(①)。</p>
<p>4/20 Wednesday</p>	<p>8時50分発表の本邦3月貿易黒字が1965億円と予想(6454億円)を大きく下回ったことを受けた円売りや、事業法人の決済が集中しやすいゴトー(5・10)日の仲値公示に向けたドル需要への思惑を背景にドル/円が上昇したこと、さらに日経平均株価が上昇したことなどをを受けてポンド/円は上昇した(②)。135円台後半では上値が重く、米国市場序盤にドル/円が急落すると、ポンド/円は連れて134.74円まで値を下げたが、NYダウ平均の大幅高を受けてその後は135円台前半まで反発した。なお、17時30分発表のイングランド銀行(BOE)の議事録については、金融政策決定の投票内容が前月と変化がなかったことを受け、5月利上げ観測が後退すると、ポンドは売り優勢となった。しかし、他のクロス円が上昇していたこともあり、ポンド/円の下げ幅は限定的だった。</p>
<p>4/21 Thursday</p>	<p>17時30分に発表された英3月小売上高指数が前月比+0.2%と予想(-0.4%)に反して良好な結果だったことを受けてポンド高が進んだ上、NYダウ平均先物が上げ幅を拡大する動きを見せる中、ポンド/円は上昇し、135.96円まで上昇した(③)。しかし、その後にユーロ/円が大きく値を下げると、ポンド/円も上げ幅を縮小。その後、NYダウ平均が堅調に推移する中でポンド/円も再び反発したが、翌22日からのイースター休暇を控えて上値は伸びなかった。</p>

上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/JPY

今週の見通し

今週の英国では第1四半期国内総生産(GDP)・速報値が27日に予定されており、注目される。しかし、週を通してみると独自の手掛かり材料に乏しく、ポンド/円は主に他の通貨ペアの動きに連れる展開になると考えられる。今週は27日に発表される米連邦公開市場委員会(FOMC)の声明内容や、その後に行われる米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の記者会見に対する市場の関心が非常に高い。また、米国では毎日のように主要な経済指標が発表される予定で、こちらも注目を集める見通しだ。これらの内容によってドルが対ポンドと対円の「どちらに対してより動いたか」でポンド/円の方向感は決まってくる。また、ギリシャの債務再編懸念などが広がる中、26日に発表されるユーロ圏諸国の対国内総生産(GDP)比財政赤字も注目される見通しだ。これを受けてユーロ/円が大きく動けば、ポンド/円もそれに連れて動くものと考えられる。(ジェルベズ)

(予想レンジ:132.50~138.20円)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/円 4/22週足引値:135.23円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見る相場展開)
 ポンド/円は、118.76円(2009/01/19安値)から163.04円(2009/08/07高値)まで44.28円上昇した。今後は上記上昇幅のどこまでを下落によって戻すかが焦点だが、すでに安値122.98円(3/17)をつけており、長期的な流れでは依然として下落のように見える。

先週のポンド/円は4/18に安値132.99円を付けて後、緩やかな戻り上昇の動きとなった。現状では、60日線(133.53円、4/22)、200日線(132.01円、4/22)を上回っているが、20日線(135.60円、4/22)と交錯している。ボリンジャーバンドは4/22現在、上限:140.18円~下限:131.01円であり、バンド上限は下落、下限は上昇しており、バンド幅は縮小している。133~137円くらいのもみ合いとなると見られるがここからは上伸力も乏しく、戻り下落狙いとも取れるところ。上値ポイントは①140.00円(4/08高値)、②140.58円(2010/5/10高値)、③140.90円(163.04-118.76の半値)であり、下値ポイントは①133.53円(60日線、4/22段階)、②132.99円(4/81安値)、③132.01円(200日線、4/22段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 4/18~22の主な推移



4/18 Monday	前週末に行われたフィンランド議会選挙の結果からポルトガルの支援承認が困難となる可能性が浮上し、ユーロ/ドルが下落すると、ポンド/ドルも連れて下落。さらに、夕方にギリシャ紙が「ギリシャはEUと国際通貨基金(IMF)に債務再編を要請した」と報じた事を受けてユーロ/ドルの下げが続くとポンド/ドルも軟調さを継続した。格付け会社S&Pが米国の格付け見通しを「ネガティブ」に引き下げたことでドルが全面的に売られると、一旦1.6327ドルまで浮上する場面もみられたが、この発表を受けて米国株が大幅に下落するとポンド/ドルは1.6164ドルの安値まで急落した(①)。
4/20 Wednesday	日経平均株価の上昇や欧州株の上昇を背景にポンド/ドルは堅調に推移。17時30分発表のイングランド銀行(BOE)の議事録において、金融政策決定の投票内容が前月と変化がなかったことを受けて5月利上げ観測が後退すると、ポンド/ドルは1.6306ドルまで急落する場面もあったが、その後も欧米株が堅調に推移したことを背景にポンド/ドルは反発し、1.6424ドルまで上昇した(②)。
4/21 Thursday	国際商品価格の上昇を背景に東京市場からドルが全面的に売られると、ポンド/ドルも上昇。さらに、17時30分に発表された英3月小売売上高指数が前月比+0.2%と予想(-0.4%)に反して良好な結果だったことを受けてポンド高が進んだ他、21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が40.3万件(予想:39.0万件)、23時発表の米4月フィラデルフィア連銀景況指数が18.5(同:36.9)と双方が予想よりも米経済が弱いことを示す結果だったことがドル売り材料となり、ポンド/ドルは1.6597ドルまで上昇した(③)。ただ、その後は翌22日からイースター休暇入りすることもあり、ポジション整理の売りなどによって上値を抑えられた。

上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今週の見通し

今週の英国で予定されている重要イベントは第1四半期国内総生産(GDP)・速報値(27日)の一点のみだが、米国では毎日のように重要な経済指標の発表が予定される。さらに、27日には米連邦公開市場委員会(FOMC)の金融政策発表が予定されている上、FOMC後としては初めて、米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長が記者会見を行う。今週のポンド/ドル相場はこれら米国の経済イベントが方向感を定めるものと考えられる。経済指標や要人発言などから米流動性供給策が早めに巻き戻されるとの観測が広がればドル高が進むと見られる一方、経済指標に悪い結果が目立ったり、バーナンキFRB議長が米国経済の先行きについて慎重姿勢を示し、広がりつつある「年内利上げ観測」が後退するようなら、ドル安が進もう。また、ユーロ/ドルの動向も併せて注目したい。ユーロ圏については、26日に各国の対国内総生産(GDP)比財政赤字が発表される。これを受けてユーロ圏の債務不安が強まりユーロ/ドルが下落すれば、ポンド/ドルも連れて下落する可能性もある。(ジェルベズ) (予想レンジ:1.6250~1.6720ドル)

テクニカル分析

〔移動平均線〕
 20日線 60日線 200日線
 〔ボリンジャーバンド〕
 +2シグマ -2シグマ



●ポンド/ドル 4/22週足引値:1.6512(日足、移動平均、ボリンジャーバンド、ストキャスから見た相場展開)
 ポンド/ドルは、1.3501(2009/01/23安値)から1.7043(2009/08/05高値)まで3542ポイント上昇した。大きなところでは依然としてその安値-高値の中で大きなもみ合いを形成中である。

先週4/21に直近高値1.6597を見たが、その後は小反落している。

取引値は20日線1.6258(4/22)、60日線1.6189(4/22)、200日線1.5853(4/22)を上回っている。また、ボリンジャーバンドは4/22現在、上限:1.6567~下限:1.5949であり、バンド幅の上限は上昇し、下限は横這いである。ポンドはユーロ/ドルの動きに引っ張られるような動きとなっている。ユーロ/ドルが調整的下落になればポンドも1.62を見るとみられる。目先の上値ポイントは①1.6597(4/22高値)、であり、下値ポイントは、①1.6258(20日線、4/22段階)、②1.6189(60日線、4/22段階)、である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/25~28)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/25 (月)			ウェリントン、シドニー、香港、フランクフルト、パリ、チューリッヒ、ロンドン(イースターマンデー)、南ア休場(家族の日)		
	23:00	○	(米) 3月新築住宅販売件数	25.0万件	28.0万件
			(米) 3月新築住宅販売件数 [前月比]	-16.9%	12.0%
4/26 (火)			シドニー休場(アンザック・デー)		
	22:00	○	(米) 2月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.06%	-3.29%
	23:00	○	(米) 4月消費者信頼感指数	63.4	64.5
	23:00	○	(米) 4月リッチモンド連銀製造業指数	20	20
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
4/27 (水)			南ア休場(自由の日)		
	10:30		(豪) 第1四半消費者物価 [前期比]	+0.4%	+1.2%
			(豪) 第1四半消費者物価 [前年比]	+2.7%	+3.0%
	15:00		(独) 5月GfK消費者信頼感調査	5.9	5.8
	17:30		(英) 第1四半期GDP・速報値 [前期比]	-0.5%	+0.5%
			(英) 第1四半期GDP・速報値 [前年比]	+1.5%	+1.8%
	21:30	○	(米) 3月耐久財受注 [前月比]	-0.9%	+2.0%
		○	(米) 3月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	-0.6%	+1.6%
	25:30	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	0.00-0.25%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) バーナンキFRB議長記者会見	—	—
	未定		(独) 4月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.5%	+0.2%
			(独) 4月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.1%	+2.4%
4/28 (木)	—	◎	日銀金融政策決定会合	0.00-0.10%	0.00-0.10%
	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレート	2.50%	2.50%
	08:01		(英) 4月GfK消費者信頼感調査	-28	-27
	08:30	○	(日) 3月全国消費者物価指数 [前年比]	±0.0%	±0.0%
	08:30	○	(日) 3月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.3%	-0.2%
	08:30		(日) 3月失業率	4.6%	4.8%
	08:50		(日) 3月鉱工業生産・速報 [前月比]	+1.8%	-11.1%
			(日) 3月鉱工業生産・速報 [前年比]	+2.9%	-8.5%
	16:55		(独) 4月失業者数	-5.5万人	-4.0万人
			(独) 4月失業率	7.1%	7.0%
	18:30		(南ア) 3月生産者物価指数 [前年比]	+6.7%	+7.3%
	21:30	◎	(米) 第1四半期GDP・速報値 [前期比年率]	+3.1%	+1.8%
	21:30	◎	(米) 4/23までの週の新規失業保険申請件数	40.3万件	--
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・速報値 [前期比]	+4.0%	+2.0%
	23:00	○	(米) 3月中古住宅販売保留 [前月比]	+2.1%	+1.5%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (4/29)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/29	—		東京休場(昭和の日)		
(金)	07:45	○	(NZ) 3月貿易収支	+1.94億NZD	+2.00億NZD
	15:00		(独) 3月小売売上高指数 [前月比]	-0.3%	+0.1%
			(独) 3月小売売上高指数 [前年比]	+1.1%	+1.2%
	17:00		(ユーロ圏) 3月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.0%	+2.2%
	18:00	◎	(ユーロ圏) 4月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	18:00		(ユーロ圏) 4月消費者信頼感・確報	-11.4	-11.4
	18:00	○	(ユーロ圏) 3月失業率	9.9%	9.9%
	21:30	○	(加) 2月GDP [前月比]	+0.5%	±0.0%
	21:30	○	(米) 3月PCEデフレーター [前年比]	+1.6%	+1.9%
	21:30	○	(米) 3月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.2%	+0.1%
		○	(米) 3月PCEコア・デフレーター [前年比]	+0.9%	+0.9%
	21:30		(米) 3月個人所得 [前月比]	+0.3%	+0.3%
	21:30	○	(米) 3月個人支出 [前月比]	+0.7%	+0.5%
	22:45	◎	(米) 4月シカゴ購買部協会景気指数	70.6	68.5
	22:55	○	(米) 4月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	69.6	70.0

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com